

電気通信大学のベンチャー、ワイヤレスコミュニケーション研究所(東京都調布市、尾崎鋭一社長)はマイクロ波センサーで人の動きを感知する高齢者見守りシステムを開発、8月に発売する。体に触れることなく、心拍や呼吸、睡眠を計測、分析できるのが特徴。川崎市と共同開発した圧電センサー利用の同システムと合わせ、医療機関や老人介護施設などに売り込む。

# 高齢者見守り

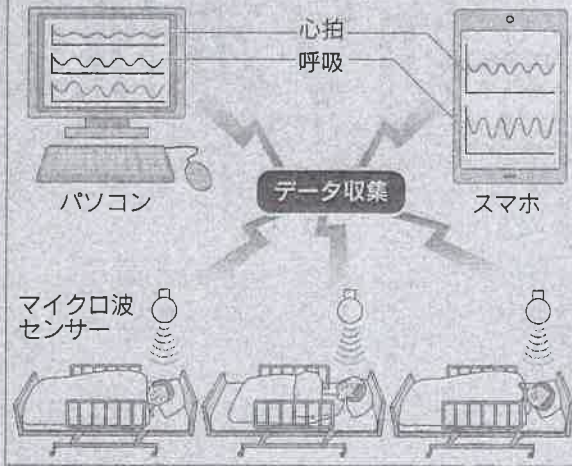
**心拍 呼吸 睡眠 触らず計測**

周波数24ギガ(は10億)と電波の中で最も短い波長域のマイクロ波を送受信するセンサーを寝室の天井などに設置し、呼吸や心拍、寝返りなどの動きを計測する。センサーから送る波と人に当たって返る波の周波数の違いで、心拍や呼吸の乱れなど異常のチェックで病気の

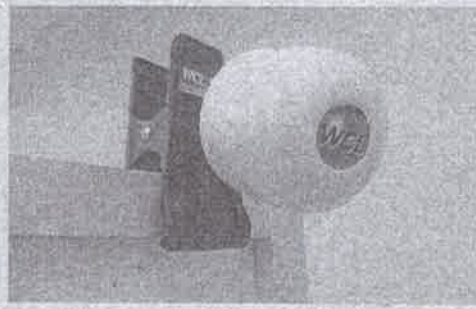
## 電通大発ベンチャー

# マイクロ波で

マイクロ波センサーを使う高齢者見守りシステム



寝室に取り付けるだけで、寝ている人の心拍や呼吸を計測し、睡眠レベルまで分析



早期発見につなげる。寝返りの回数などから、浅い眠りの「レム睡眠」か深い眠りの「ノンレム睡眠」か、など睡眠のレベルを分析し、健康状態のチェックに使うこともできる。微妙な変化でトイレが近いことがわかるなど、日常の介護にも役立つという。

## 県内景況感、5.5ポイント低下

4～6月 3期連続マイナス超

横浜財務事務所が13日発表した4～6月期の神奈川県内の法人企業景況感予測調査によると、企業景況感を示す景況判断指数(BSI)は全体でマイナス11.8と、1～3月期から5.5ポイント低下した。非製造業で人件費の高騰を指摘する声が強くなり、昨年10～12月期から3期連続のマイナス超となった。

BSIは景況が前の四半期に比べ「上昇と答え」た企業の割合から「下降」の割合を差し引いた値。非製造業のBSIは7.5ポイント低下のマイナス10.4だった。建設業を中心に、人件費など仕入れ価格以外でのコスト増加が下押し要因となった。製造業は1.9ポイント低下のマイナス14.3。三菱自動車車の燃費データ不正問題などを受け、自動車や部品関連で悪化した。全体の先行きBSIは

調査は5月15日時点で、資本金1000万円以上の企業780社を対象に実施し、80%にあたる625社から回答を得た。非製造業のBSIは7.5ポイント低下のマイナス10.4だった。建設業を中心に、人件費など仕入れ価格以外でのコスト増加が下押し要因となった。製造業は1.9ポイント低下のマイナス14.3。三菱自動車車の燃費データ不正問題などを受け、自動車や部品関連で悪化した。全体の先行きBSIは

1年に設立。全球測位システム(GPS)など位置を検出する研究を柱にナビゲーション技術の実用化に取り組み、無線通信や放射線計測などの各種製品を開発、販売している。売上高は2016年3月期に約8000万円。

## JR立川駅に 屋根付き広場

再開発、8月から供用

東京都立川市のJR立川駅北口西地区で建設中の再開発事業(「立川タクロス」)で、路上ライブやイベント利用が可能な屋根付きの円形広場が誕生する。再開発事業の街開きとなる8月4日に供用を開始する。同時に駅の南北を結ぶ新たな自由通路の供用も始まることから、駅周辺地区のにぎわいや回遊性の向上に寄与しそうだ。

# 大和ハウス整備の研究施設 川崎市が一部取得

26億円で

川崎市はJR横須賀線の新川崎駅近くの産学交流拠点「新川崎・創造のまち」で、大和ハウス工業が2017年度末までに整備する研究開発施設の一部を約26億7600万円で買い取ることを決めた。地上5階地下1階、延べ床面積約2万8000平方メートルのうち約7000平方メートルを買い取り、ベンチャー企業などに貸し出すインキュベーション施設として活用する。



川崎市はJR横須賀線の新川崎駅近くの産学交流拠点「新川崎・創造のまち」で、大和ハウス工業が2017年度末までに整備する研究開発施設の一部を約26億7600万円で買い取ることを決めた。

約を結び、大和ハウスが研究開発施設を建設する。川崎市は買い取り分について、インキュベーション施設のほか、企業同士の交流スペースや飲食施設も整備する。18年3月に利用を始める。大和ハウスは残る約2万1000平方メートルの床を入居を希望する研究開発施設として活用する。

## ハマスタでのオールスターゲーム

プロ野球の横浜DeNAベイスターズは7月16日の横浜スタジアムでの現球団初のオールスターゲームを盛り上げるため、15日に体験型の「前夜祭」を開く。

# 「前夜祭」で盛り上げられ!

## 大型ビジョン観戦/地元歌手ライブ

同球場の大型ビジョンを使って福岡の第1戦のパブリックビューイング(PV)をしたり、地元出身歌手のコンサートを開いたりする。オールスター開催地の球場がこうしたイベントを区でも同様の取り組みを

開くのは初めてという。池田純球団社長は13日、球場内で記者会見し「横浜名体験」などのコーナーも市民に野球をより身近に感じてもらえれば」と期待を込めた。同球場が進めようとしている地域を活性化させる「コミュニティ・ホールパーク構想」の一環としての位置づけだ。同球場は、入場料は大人1800円、子ども500円。13日から販売を始めた。

バットにつけたセンサーで打球の飛距離などを試算する「バッティングシミュレーター」や「ドラフト指名」などのコーナーも市民に野球をより身近に感じてもらえれば」と期待を込めた。同球場が進めようとしている地域を活性化させる「コミュニティ・ホールパーク構想」の一環としての位置づけだ。同球場は、入場料は大人1800円、子ども500円。13日から販売を始めた。

面積は約千平方メートル。木製のステージを備え、直径25メートルの円形屋根が付